

# 平成24年度 学校自己評価システムシート（県立三郷特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒・保護者及び地域社会の期待に応え、信頼される元気な学校
--------	---------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別の指導計画に基づく授業の充実・改善</li> <li>2 開かれた学校づくりと特別支援教育のセンター的機能の発揮</li> <li>3 進路指導の充実</li> <li>4 安全・安心・信頼を柱とする学校の基盤強化</li> </ol>
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局（教職員）	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価（12月21日現在）		
年度目標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			評価項目の達成状況
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育支援プランは、支援のツールとしての活用が進んできた。今後は、児童生徒の障害の特性や課題など個に応じた学習指導の充実を進めていく必要がある。</li> <li>平成25年度の草加新校開設における児童生徒の減少に向けて、教育課程の整理をする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善の継続と授業の充実</li> <li>教育課程の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a PDCサイクルに基づく授業改善に加え、授業研究を中心とした実証的な研究活動を推進する。</li> <li>b 各学部及び児童生徒の実態に即した自立活動に取り組む。</li> <li>c 平成25年度課題検討委員会を中心に教育課程委員会と連携し、教育課程上の課題を整理するとともに、具体的対策を練る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 学部シートを基に授業改善を進めたか。</li> <li>a 授業を評価し合い、実践力の向上ができたか。</li> <li>b 個別の指導計画を基に実践できたか。</li> <li>c 次年度に向けた、対策が検討できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めに保護者に示した各学部の改善した授業の取組ができた。</li> <li>a 研究授業、研究協議会、実践報告会により、実践力を高めることができた。</li> <li>b 保護者と連携し、概ね個々の課題に即した指導が実践できた。</li> <li>新たな教育課程を整備した。</li> <li>c 児童生徒減少に伴う、新たな学級編制の骨子をまとめた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の個々の成長を考慮し、保護者と担任の共通理解のもと個別の指導計画を作成することが課題である。</li> <li>面談時などに保護者の意向を聞き、授業の工夫や改善を引き続き行い、個別の指導計画を作成・実践する。</li> <li>児童生徒の減少により、課題別授業の編制や授業内容の検証が課題である。</li> <li>児童生徒の減少に伴い変更した教育課程の検証を行う。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や保護者へ、より開かれた学校づくりを推進するための積極的な情報発信が必要である。</li> <li>センター的機能や校内支援の要請が高まり、関係機関との連携が不可欠である。平成25年度に向けてコーディネーターの業務内容を再確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開かれた学校づくり</li> <li>地域支援の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 地域・保護者等のニーズに応じたHPの作成や学校公開日を設ける。</li> <li>b ボランティア講座について、企画内容・時期の見直し等の改善を図る。</li> <li>c 地域支援部を中心として相談支援等を行っていく。</li> <li>d 本校における地域支援の課題を整理し、役割分担の検討を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ホームページの更新ができたか。</li> <li>a 学校公開日を設けることができたか。</li> <li>b ボランティア研修に関する情報を広く公開し、実施できたか。</li> <li>c 関係機関と連携をとりニーズにあった支援ができたか。</li> <li>d 役割分担を明確にし、効率化が図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、保護者に学校を知ってもらう機会を増やせた。</li> <li>a ホームページ更新数を増やすことができた。さらに7月と11月に学校公開日を増設した。</li> <li>b 登録ボランティアが授業に入り支援を行った。</li> <li>校内の役割を明確にし、昨年度より関係機関との連携を進めることができた。</li> <li>c 新規に三郷、八潮市教育相談室と連携し、支援を行った。</li> <li>d コーディネーターと学年の地域支援部が分担を明確にし効率よくできた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開日では、地域の方の見学しやすい日程・方法を検討することが課題である。</li> <li>ボランティア講座の開講に向けて計画し、各市の広報紙等に掲載してもらうように進める。</li> <li>専門機関・関係機関と連携及び情報共有を図り地域支援を更に進めていくことが課題である。</li> <li>分掌等の整理に伴い、新たに地域支援部とクラス担任との体制作りをし、校内外の支援をしていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部の取り組みは充実してきている。進路指導全体計画を完成させ、活用しながら、各学部毎に児童生徒の発達の状況に応じた進路指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労支援体制の充実</li> <li>児童生徒の進路意識の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 進路指導全体計画を完成させる。</li> <li>b 就労支援ネットワークの有効活用や周知を保護者へ図る。</li> <li>c 個人面談及び進路に関する説明会を通して、情報提供の充実に努める。</li> <li>d 産業現場等における実習及び作業学習、日々の授業等において、進路意識の向上を図る学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 進路指導全体計画が完成したか。</li> <li>b 保護者への情報提供ができたか。</li> <li>c 個別面談が適切に実施できたか。</li> <li>c 全保護者対象の進路説明会の実施ができたか。</li> <li>d 進路指導目標を意識した授業が実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導全体計画を完成させ、面談等を通し就労支援に関する個人指導に生かした。</li> <li>a 完成し現在試用中である。</li> <li>b それぞれの集まりでプリントを配布し、細かな情報提供ができた。</li> <li>c 年間2～3回の個別面談を実施し、個別の対応ができた。</li> <li>授業を通し進路意識を高めることができた。</li> <li>d 高等部は校内校外実習で働く意識を高めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導全体計画を校内外にアナウンスを行い、実態を把握分析し効果的な運用を行うことが課題である。</li> <li>情報提供をさらにわかりやすい内容に工夫し、保護者が参加しやすい開催時期の検討を行う。</li> <li>保護者のニーズを踏まえ、より現実的な指導内容を模索することが課題である。</li> <li>学部を越えた情報共有の場の検討を行う。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルを完成させ、引渡し訓練の実施など児童生徒の安全確保に注意を払い、事故防止に努めている。引き続き危機管理マニュアルを検証し内容の充実に努める必要がある。</li> <li>児童生徒数の減少に伴い、校内組織等学校運営に係る事項について整理をする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な教育環境づくり</li> <li>校内組織等の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 危機管理マニュアルの検証及び周知を図り、大規模災害時を想定した訓練等を実施する。緊急時のメール配信を行う。</li> <li>b 研修会、事故防止事例検証等を通し児童生徒の安全確保に努める。</li> <li>c 安全な自主通学の推進を図る。</li> <li>d チャレンジカードを活用した「じょうぶな体づくり」等の健康教育を推進する。</li> <li>e 平成25年度課題検討委員会を中心に、課題を整理し具体的対策を練る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 危機管理マニュアルの加筆修正等ができたか。</li> <li>a メール配信が保護者に周知できたか。</li> <li>b 研修会を実施し、教職員に周知できたか。</li> <li>c 安全を意識した通学指導ができたか。</li> <li>d 個々の目標を設定して取り組むことができたか。</li> <li>e 次年度に向けた、組織の再編・教室整備等が検討できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理に関して教職員の意識を高め事故防止に努めた。</li> <li>a 体罰防止マニュアルを追加し、マニュアルも見直し修正できた。緊急時のメール配信が実施できた。</li> <li>b 校内研修会を3回実施、校外研修会に参加し報告を行い周知をした。</li> <li>c 交通安全プリント配布、自主通学生に講習会を実施した。</li> <li>d 高等部で個々の実態に応じて取り組むことができた。</li> <li>委員会が機能し検討できた。</li> <li>e 分掌等の案は作成できた。教室整備等基本案ができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルは常に更新が必要である。今後、不審者対応、災害時の避難所としての対応、児童生徒の突発的な疾病発生時の対応等を継続して検討することが課題である。</li> <li>各学部学年で「じょうぶなからだづくり」の取組について再検討をする。</li> <li>職員の服務規律を高めるために倫理確立委員会を中心に、研修会の工夫を検討していくことが課題である。</li> <li>校内組織等の整理をしたが、次年度は実践しながら、不具合があれば、更に検証していく必要がある。</li> </ul>

学校関係者評価	
実施日	平成25年2月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>達成度としては「B」であったが、評価できる活動内容である。授業では、全体的指導として挨拶や返事、食事といった基本的な生活習慣を踏まえ、個々の得意分野等を伸ばす指導に取り組んでもらいたい。また、保護者との連携は十分にとれているが、より相手がどのように理解しているかを考え、さらに、深められる面談ができるとうよい。</p>	
<p>本年度は、昨年度より「開かれた学校づくり」の取組が前進している。特に学校公開日の取組は良かった。次年度は地域の皆様の来校を期待したい。今後も、本校の良い部分を外にもっとアピールしていく必要がある。</p> <p>現在の特別支援教育においては、学校のみ取組だけではなく、より専門機関や関係機関との連携を深めて行く必要がある。分校が草加かがやき特別支援学校に移管することから、学区内における高等学校の支援を、次年度から本校が行う必要がある。</p>	
<p>学校内の作業学習は、個々の能力を生かした活動を実施しているが、社会のニーズにあった能力が身につくとさらによい。</p> <p>進路指導というと中学部からの指導をイメージするが、小学部から一つ一つの活動が進路につながるの、小さい頃から基本的な生活習慣の確立に向けて学校と家庭で連携していくことが大切である。学校でできること家庭でできること、そして両方で取組まなくてはならないことを整理できるとよい。</p>	
<p>「引渡し訓練」は良い取組である。避難訓練等は今回も実施することにより、自然に身につけていくものであり、日々の取組・意識が重要である。また、学校と家庭との連絡は、緊急時だからということだけでなく、通常時に連絡帳等を通し情報交換を密にしていく必要がある。</p> <p>達成度は「B」であるが、信頼回復に向けた教職員の努力は理解できる。評価できる取組なので内容を情報発信し、外部の人にも理解してもらおうとよい。</p> <p>「じょうぶなからだづくり」は、就学前の子どもたちからの食生活も大切であり、今後も続けてもらいたい。</p>	